

第 7 回 道路橋床版の合理化検討小委員会 議事録

1. 日 時：平成 19 年 9 月 13 日（木） 14:00～18:00

2. 場 所：広島工業大学 広島校舎 201 会議室

3. 配布資料：

- （全 7-1）道路橋床版の合理化検討小委員会（第 7 回）開催案内
- （全 7-2）第 7 回全体会議出欠表
- （全 7-3）小委員会委員名簿（2007/9/13 版）
- （全 7-4）第 6 回道路橋床版の合理化検討小委員会 議事録（案）
- （全 7-5）第 6 回床版シンポジウムまでのスケジュール
- （全 7-6）第六回道路橋床版シンポジウムの講演論文募集
- （全 7-7）「鋼・合成構造標準示方書」（「橋梁と基礎」投稿原稿（案））
- （全 7-8）鋼構造委員会提出用 チェックリスト（論文集に関わるアンケート調査票）
- （全 7-9）性能設計分科会 活動報告
- （全 7-10）明治橋分科会 活動報告
- （全 7-11）明治橋分科会 第 13 回分科会議事録
- （全 7-12）コンクリート系床版分科会 活動報告
- （全 7-13）鋼床版分科会 活動報告

4. 議事内容

日野委員長より開催の挨拶があった。

5. 話題提供

(1) 西川顧問

国土技術政策総合研究所・西川顧問より、鋼構造委員会委員長への就任挨拶のほか、昨今の技術動向について話題提供があった。

- ・ 木曽川橋や本荘大橋のトラス橋の腐食破断事故や、米国ミネアポリスの落橋事故などの報告が相次いでおり、維持管理の重要性がますます増大している。既に、維持管理の時代の本番に突入している。そのような中、地方自治体における橋梁の維持管理については、長期計画の策定が求められている。実際には、「せめて（管理している）橋を看てくれ」というのが本音であるが、橋を点検するだけでは予算が出ないのが実状である。
- ・ 示方書の改定が進められているが、国土交通省（土研や国総研）の主導ではなく、幅広い技術者に関わって欲しい。新しい技術を積極的に取り入れるシステムも求められている。
- ・ 10 月 19 日に鋼構造委員会の幹事会が開催されるので、新しい活動を積極的に提案して欲しい。

(2) 横山委員

NEXCO 西日本 横山委員より、「中国道における鋼橋 RC 床版の劣化損傷と補修の事例について」と題して話題提供をいただいた。

- ・ NEXCO 中国支社管内の新設区間はほとんど終了しており、維持管理の時代に突入した。管理延長は 1,025km で 800 橋の橋梁がある。橋梁の占める延長は、約 13.5%である。
- ・ 損傷事例として、RC 床版や桁端部、PC 定着部、初期欠陥などの事例が示された。
- ・ 補修計画の重要性の再認識をしている。足場を設置して初めて分かることもあり、補修に向けた現場調査は重要である。
- ・ これまでの詳細な点検履歴のレビューを行って、対症療法からの脱却を目指している。
- ・ NEXCO では、「中国地区構造物補修検討会」を開設し、6 つの検討分科会による活動を行っている。特に、RC 床版の補修をメインに、LCC の試算、劣化損傷のシナリオや補修シナリオの作成を行っている。場合によっては、PC プレキャスト床版への取替えも視野に入れている。
- ・ NEXCO 中国支社管内における損傷としては、中国自動車道を中心に RC 床版の劣化が多いが、局部的

なものが多く、コンクリート材料の理由と思われるものはない。

(3) 委員交代

なし

(4) 前回議事録の確認

久保主査より、前回議事録が読み上げられ、一部表現の修正を行うことで議事録として承認された。

(5) 幹事会報告

- ・ 次回全体会議が 12/4 の開催、次回幹事会が 11/19 の開催が確認がされた。報告書の作成については、次回全体会議で目次案の審議を行い、3 月中旬に原稿案提出を予定。
- ・ 第 6 回書道路橋床版シンポジウムの募集に関する報告があった。
- ・ 「鋼・合成構造標準示方書」の発刊案内について、「橋梁と基礎」への投稿原稿案が示された。
- ・ 道路橋床版シンポジウム論文集の名称について、「講演論文集」として呼称できるよう鋼構造委員会へ働きかけるとともに、当小委員会も呼称使用に対する要件を満たすよう努力していく。

(6) 分科会報告

1) 試験方法分科会（大西主査）

- ・ これまでに 3 回の分科会を開催した。
- ・ 報告の目次については、前回の床版シンポジウムでの報告内容に第 4 章「試験結果の評価方法に関する検討結果」、第 5 章「F E M を用いた試験条件の再現」、第 6 章「輪荷重試験結果に与える試験条件の影響」を加えたものとしている。
- ・ 試験結果の評価においては、載荷回数 10 万回までの劣化度（たわみ劣化度の増加率）に着目している。
- ・ 試験結果において、載荷スピードによる違いによる有意差を説明できるまでには至らなかった。

2) 性能設計分科会（全 7-9：秋元幹事）

- ・ これまでに 3 回の分科会を開催した。
- ・ 全体の目次から、「その他」を廃止した。
- ・ 設計計算例においては、非現実的な数値は避け、読み手に誤解を招くような表現は避けた方がよい。
- ・ 振動特性の比較では、構造力学公式集による算出方法が、合成床版に適用できるかは再検討する。また、計算例においては、前提となるポアソン比などの数値について説明を加えること。また、鋼床版単独の振動特性の評価の意味について誤解がないよう配慮すること。

3) コンクリート系床版分科会（全 7-12：久保主査，高須賀 WG 長，河村 WG 長，佐藤 WG 長）

- ・ 各 WG 分担分の目次案が示された。
- ・ 性能設計分科会と内容（特に設計例）の不整合がないよう注意する必要がある。
- ・ 合成床版の性能照査型設計法については、国土交通省直轄での事例を示す予定である。
- ・ 「高耐久性の PC 床版」という名称については再検討する。
- ・ 維持管理システムの概論において、東京都の事例と北海道の事例については、内容を再確認する。
- ・ 劣化予測と補修・補強工法の対応においては、国総研のストックマネジメントの考え方を参照する。

4) 鋼床版分科会（全 7-13：内田幹事）

- ・ これまでに 2 回の分科会を開催した。
- ・ 各 WG 担当分の目次案が示された。
- ・ 疲労損傷の補修事例については、今回は取り扱わないこととした。
- ・ ECC 舗装の呼称については、土木学会の統一呼称があるようなので再確認する。

5) 明治橋分科会（全 7-10，全 7-11：中村主査）

- ・ これまでに 1 回の分科会を開催した。次回は 11 月初旬を予定している。
- ・ 報告書の目次案が示された。第 1 編については、若干の変更を行った。
- ・ 第 2 章「系譜に関する評価」については、岡崎氏らの成果を参照していることを明確に示すこと。
- ・ 明治橋が国の重要文化財として認定されるためには、管理者である臼杵市のプッシュが必要である。

以上

（文責：井口）